

事例発表 ③ 古林 美香さん(放課後カフェ連絡会(西東京市) 代表)



西東京子ども放課後カフェ代表の古林です。1972年生まれのプロの会社員をやって今26年目。今年の活動目標は「野良ママ」です。

これは昔でいうところの「おせっかいおばさん」の言い換えです。野良のお母さんとして、いろんな若者の悩み事相談などをやっていこうと思っています。

48歳から5年目くらいDJをやっています。

他にも、アートをコミュニケーターとして対話型美術鑑賞をやったり、スナックをやってみたり、共生社会を実現するような団体の代表をやってみたり。最近で言うと、東京都の失語症者向け意思疎通者になったので、脳出血とか脳梗塞で言葉が出にくくなってしまった方の支援も、これからやっていこうと思っています。今日のテーマとは関係ないんですけど、いろんなことやっているという話でした。

さて、放課後カフェは、平成30年度の西東京市市民企画提案事業に応募して、採択された事業です。当時、西東京市の中学校9校のうち、7校で放課後カフェができたのですが、コロナの後に全部なくなって、いま定期で活動しているのが2箇所になります。この後は、写真を見ながら話をします。

コロナの後は、放課後カフェで、飲み物も出せなくなりましたが、現在、一部の中学校では再開してるところもあります。最初はやっぱり飲み物っていうのでカルピスとかね。やっぱりまあ、甘い飲み物だったよとかね。そういうのが人気です。

放課後カフェで漫画を読んでいるのが、この学校の副校長先生です。結構、いろんなカードゲームとかボードゲームがあります。海外製のものがルールが分かりやすいので、すぐ一緒に遊んだりします。「人狼」のようなゲームもあります。

カフェの教室には窓際に漫画を読みたい人用のブースを作ったり、テーブルで人生ゲームをやってみたり、パンチングマシンもあります。みんなストレスが溜まっているので、壊れてしまいます。PTAの知り合いに赤ちゃんを連れてきてもらい、みんなでミルクをあげてみたりしました。

カフェを始めた最初のきっかけは、私が小学校の学童クラブの父母会だったり、PTA役員をやったりする中で、夏祭りなど小学生向けの活動は多いけど、中学生のなった途端に中学生向けのサービスがなくなってしまう。「何か自分たちにできるサービスがあるのではないか」と思ったことです。

たまたまお隣の小金井市で、中学校の居場所活動をしている話を聞いたので、見学をしました。

当時、PTAの役員をしていたので、校長先生に学校で居場所活動をやりたいと話をしました。

その時の校長先生は仲良しだったので、隣の市でやってる居場所活動ををやりたいと、何回もお願いしたのですが「無理だよ。そんなの、できないよ。」と言われ、これは無理かなと思いつつ、でも「もう校長先生は定年じゃないですか。定年になる前に必ず1回だけでもやらせてください！」と話をしたら、「古林美香さんが一人でやりたいやらないって言うてもね。それではなかなか動かない。西東京市の教育関係の人だったり社会福祉協議会の人など、外部の人を意見も聞き、企画書なり事業計画書を作ってから、再度お話しさせてください」とのことでした。

その後、たまたま西東京市市民協働推進センター「ゆめこらぼ」から声がかかり、色々なステークホルダーが登壇する円卓会議に参加することになりました。その時に、学校で放課後カフェを開こうと思っているという話をしたら、その場にいた民生児童委員さんらが「それはとっても素敵だから、すぐにやってみたい」という発言がありました。彼女は、ある中学校の先生との信頼関係もあり、彼女に言われたら断れないという流れとなり、そこでも広がっていきました。



そして、この試みを市民の人に知ってもらったら仲間が増えるのではないかとということで、公民館の市民企画事業に応募したところ採択されました。2万円ぐらいの予算があるので、高校で居場所活動「ぴっかりカフェ」を開催している「NPO 法人パノラマ」の石井さんと呼んで講演会を開いたところ、すごく反響があり70人ぐらい集まりました。みんなの関心が高いことがわかりました。講演後、各地域の中学校でなんかしらのカフェをしてみようという話になり、放課後カフェ連絡会が組織され、私は代表になりました。

その後、西東京市のNPO等市民協働企画提案事業に応募して、プレゼンをしました。

その結果、放課後カフェが協働事業に採択され、西東京市と協働で何年か一緒にやることになりました。

協働事業は3年間続く予定でしたが、新型コロナの影響もあって、1年半ぐらいで休止状態となってしまいました。その縁で、今もこうしてお声かけいただいています。放課後カフェのホームページやパンフレットを見た人から、時々電話がかかってきて「見学をしたい」という依頼が絶えないのは、やはり関心を持たれているのだと思います。

さて、色々なところから、よく「主催者はどこなの？」と聞かれるのですが、中学校によって「おやじの会」がやっているところもあれば、育成会がやっているところもあれば、民生委員・児童委員さんがやっているところもあります。それぞれの地域で、学校の管理職に顔が利く立場の人から話を持ち掛けられたら、管理職も断りづらいですね。

最後に、言い残したことをお話します。やっぱり中学生は行き場がなくお金もないから、マクドナルドとかカフェでも何時間も潰せないし、公園で溜まってれば通報されるし、常に指導され続けているのが可哀想だと思い、少しでもほっとできる時間ができるといいなと思って、カフェを継続しています。